



手の外科

“しゅ こん かん しょう こう ぐん手根管症候群”



て げ か
手の外科とは？



代表的な手の外科疾患

手根管症候群、肘部管症候群、ばね指、
骨性マレットフィンガー、舟状骨骨折、橈骨遠位端骨折
関節リウマチ、デュピイトレン拘縮など

肩から下の部分、腕・肘・手首・指などの骨折・外傷や、
しびれなどの内因性疾患の診断と治療を行う科です。

具体的には、骨折・脱臼、靱帯損傷、腱断裂、指の切断、皮膚の欠損、
熱傷、腱鞘炎、指や手の変形、変形性関節症、リウマチによる手の障害、
拘縮、手のしびれや麻痺（末梢神経損傷・障害）、先天異常、化膿、骨腫瘍・
軟部腫瘍などです。手の外科では、これらの疾患を診断し専門的に治療しています。



手外科専門医 吉原医師 (当院整形外科部長) にインタビュー!!

Q 手のしびれがあるのですが、どんな病気の可能性がありますか？

A 「脳卒中」、「頸椎の病気」、「手根管症候群」、「糖尿病」などの可能性があります。

“手のしびれ” といえば、患者さんは脳や頸椎の病気と思いがちです。

しかし、手の **※絞扼性神経障害** である **手根管症候群** も実は頻度の高い疾患です。

こうやくせい しんけい しょうがい
※絞扼性神経障害

脊髄から手足まで枝分かれした末梢神経の経路のうち、骨や靱帯
などにより周囲をかこまれた構造になっている部位で神経が絞扼され
る（圧迫される・締めつけられる）ことによって生じる神経障害のこと。



Q 手根管症候群とはどのような病気ですか？

A 正中神経が圧迫され、手の指(小指以外)にしびれや痛みがあらわれる病気です。

まず、手根管とは手首の手のひら側にある骨と靱帯に囲まれたトンネルのような器官で、その中を9つの腱と正中神経が通っています。何らかの原因で腱を覆う膜などが炎症を起こして腫れると正中神経が圧迫されます。すると正中神経が関わっている手の指(小指以外)にしびれや痛みがあらわれます。



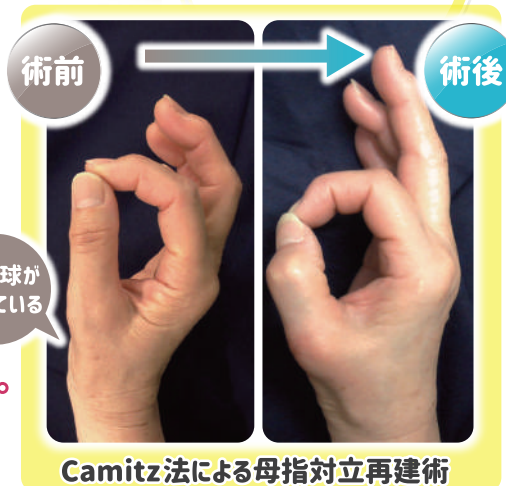
妊娠中や産後数か月の方や更年期頃の女性に多く発症するのが特徴です。そのほか、骨折などのケガ・仕事やスポーツでの手の使い過ぎ・人工透析をしている方などにも生じます。



Q 手根管症候群の治療はどのようなものですか？

A 初期症状の方はまず装具+安静、薬での治療を行い、効果が出ない方は手術をおすすめします。

しびれや痛み(感覚障害)だけの初期症状の方は、装具や薬での治療を行います。しかし、装具や薬を使っても効果が十分でない方、痛みが強い方、親指の付け根の筋肉が痩せ、ものをつまみにくい・縫い物やボタンかけが難しい・箸が使いにくいなどの症状がある方は手術が必要となります。



少しでも症状を軽減させ、悪化させないためにも、早期診断・治療が重要です。気になる症状がございましたら手の外科を受診してください。

専門医ご紹介

整形外科 部長

吉原 由樹 よしはら よしき

専門 手の外科・足の外科・リウマチ

資格

日本整形外科学会 専門医
日本整形外科学会 認定リウマチ医
日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医
日本手外科学会認定 手外科専門医
日本リウマチ学会 専門医・指導医

